

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

コバノナンヨウスギの種子採取

令和7年7月14日(月)

令和7年7月14日、那覇市内の公園にて約700個のコバノナンヨウスギ(別名：シマナンヨウスギ)の種子採取を行った。

コバノナンヨウスギは和名で、「スギ」がついているがスギの葉を連想させることからついた名であり、実際はナンヨウスギ属に属するオーストラリアやニューギニア等を原産地とする針葉樹である。

沖縄県には1960年頃に持ち込まれたとされており、成長が早く世界3大庭園樹の一つに数えられているその通直に伸びる様は、本県に新たな景観を形成しているといってもよいように思える。

また、潮風害に強く、近年では木材としても注目されている。

以前は緑化木や街路樹用として海外から苗木を購入できていたようだが、近年では購入が難しく、また県内で種子をつける木も少ない。

種子は貯蔵が困難で直播きが必要とされているらしく、採取した種子は落下して数日たっている可能性があり、発芽率に不安は残るが、多くの種子が発芽し、元気な苗木ができることを願い、育苗に取り組んでいきたい。



公園内のナンヨウスギ



落下した種子の状況



公園内で自然発芽したナンヨウスギ

(報告者：森林管理課 仲里・平田・石垣)